

No.	事務事業名	夏休み・冬休み自然体験開催事業						所属部	教育部				
								所属課	生涯学習課				
政策体系	政策名	0	4	育み磨きあうまちづくり				課長名	野村 望				
	施策名	0	2	青少年の健全育成				所属G(係)	生涯学習グループ				
	基本事業名	0	1	体験と学びを支援する環境づくり				電話番号	42-1111				
予算科目	会計	一般	1	0	0	6	0	2	153025	事業名	青少年健全育成事業	法令根拠	特になし

事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)								事業期間	
小学校高学年から高校生を対象に、豊かな自然に触れさせ、共同生活と様々な体験をさせることによって、日常生活において不足しがちな自然とのふれあいや強調の大切さを学ばせるとともに、学校、年齢間を超えた子供たちの交流の場を提供する。 定員50名、2泊3日 平成19年度 夏～霧島市、冬～大分県九重町 平成20年度 夏～南さつま市、冬～大分県九重町								<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 ↳ ( H 18 年度 ~ ) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ↳ (        年度 ~        年度 )	

1 現状把握の部 (DO)

(1) 事務事業の目的と指標		活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
手段(主な活動)		名称	
19年度実績(19年度に行った主な活動) 参加希望者を募り、2泊3日の自然体験を開催した。		ア	参加者数
20年度計画(20年度に計画している主な活動) 平成19年度に同じ		イ	
20年度計画(20年度に計画している主な活動) 平成19年度に同じ		ウ	
対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等 小学5年～高校生		対象指標(対象の大きさを表す指標)	
		名称	
		ア	小学5・6年生,中学生,高校生数
		イ	
		ウ	
意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 自然の豊かさ、行動生活のルールを学ばせ、異年齢との交流を図る		成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
		名称	
		ア	有意義と感じた参加者の数
		イ	
		ウ	
結果(どんな結果に結び付けるのか) 霧島の豊かな自然環境の中で様々な体験活動ができる		上位成果指標(結果の達成度を表す指標)	
		名称	
		ア	体験活動プログラムに参加した児童生徒の満足度
		イ	
		ウ	

(2) 総事業費・指標等の推移		単位	18年度(実績)	19年度(実績)	20年度(見込)	21年度(見込)	22年度(見込)	23年度(見込)
投入量	事業内訳	財源内訳	千円					
		国庫支出金	千円					
		都道府県支出金	千円					
		地方債	千円					
		その他	千円					
		一般財源	千円	1,911	2,060	2,411		
事業費計(A)		千円	1,911	2,060	2,411			
活動指標		人	26	37	88	90	90	90
対象指標		人	13,073	12,887	12,769	12,769	12,769	12,769
成果指標		人	未把握	未把握	88	90	90	90
上位成果指標		%	未把握	未把握	90	90	95	95

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等	
この事務事業を開始したきっかけは何か?いつ頃どんな経緯で開始されたのか? 市町村合併を契機に、青少年に自然に親しむ機会を与えるために開始した。	
事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか? 以前に比べ、子どもたちが自然と親しむ機会が減ってきている	
この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか? 保護者からは集団生活を経験したために生活態度が変わった等の声が寄せられている。	

事務事業名	夏休み・冬休み自然体験開催事業	所属部	教育部	所属課	生涯学習課
-------	-----------------	-----	-----	-----	-------

2 評価の部(SEE) *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価					
目的 妥当性 評価	政策体系との整合性 この事務事業の目的は市(町)の政策体系に結びつくか?意図することが結果に結びついているか?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている【理由】 ↷	次世代を担う子どもたちに、自然の大切さ、偉大さ、共同生活のルールを学ばせ、異年齢間の交流を図らせる	
	公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか?税金を投入して、達成する目的か?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である【理由】 ↷	都市化が進む霧島市では、普段の遊びの中で自然と触れ合う機会が減少しており、教育の中で自然体験をする場を提供することが子どもたちの健全な育成にとって重要である	
	対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか?意図を限定・拡充すべきか?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である【理由】 ↷	募集人員を拡大することにより、さらに多くの青少年の健全育成を図れる	
有効性 評価	成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか?成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか?何が原因で成果向上が期待できないのか?	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある【理由】 ↷	<input type="checkbox"/> 向上余地がない【理由】 ↷	参加可能人員を増やすことで、さらに多くの青少年の健全育成を図れる。参加人数が限られてしまい、広く体験機会を作ることができない。	
	廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?	<input type="checkbox"/> 影響無【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有【その内容】 ↷	自然豊かな霧島市で育って良かったと思う若者が減少し、霧島市に対する愛着が薄れる	
	類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか?類似事業との統廃合ができるか?類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか?	<input type="checkbox"/> 他に手段がある(具体的な手段,事務事業) ↷ <input type="checkbox"/> 統廃合できる ↷ <input type="checkbox"/> 連携できる ↷ <input type="checkbox"/> 統廃合できない ↷ <input type="checkbox"/> 連携できない ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない【理由】 ↷	県立の研修施設等が行なう自然体験事業があるが、現地集合であり、交通手段を持たない子ども達は保護者の協力がなければ参加できない。	
効率性 評価	事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか?(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない【理由】 ↷	事業費は研修施設に必要な経費であり、削減した場合、より多くの受益者負担を求めることになり、子どもたちの参加に影響が出る	
	人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか?成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか?(アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない【理由】 ↷	多くの子どもたちを安全に引率するための最小の人員で対応している。	
公平性 評価	受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか?受益者負担が公平・公正になっているか?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である【理由】 ↷	募集は市内小中学校を介して全ての対象児童・生徒にチラシを配布している。また、受益者からは宿泊代・食事代等の参加費を徴収しており、相応の受益者負担を求めている	

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN) [担当課長記入欄]

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)
目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	より多くの児童生徒が参加できるよう、安全の確保に留意しながらプログラムの改善を図っていく。

(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可	(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)																
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) (従来通りで特に改革改善をしない) <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善)	コスト <table border="1"> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		削減	維持	増加	向上				維持				低下			
	削減	維持	増加														
向上																	
維持																	
低下																	
<改革改善案> ・多くの児童生徒が参加できるプログラムの編成 ・広報、周知活動の徹底																	

(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策
・安全性の確保

No.	事務事業名	わんぱく！きりしまっ子冒険塾事業					所 属 部	教育部		
							所 属 課	生涯学習課		
							課 長 名	野村 望		
政策体系	政策名	0	4	育み磨きあうまちづくり			所 属 G (係)	生涯学習 G		
	施策名	0	2	青少年の健全育成			電 話 番 号	42-1111		
	基本事業名	0	1	体験と学びを支援する環境づくり						
予算科目	会計	款	項	目	事業	事業名	法令根拠			
	一般	1	0	0	6	0	2	153025	青少年健全育成	社会教育法第20条 22条

事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)		事業期間
霧島市内の小4～高校生を対象に、年間10回様々な体験活動を実施。全10回を通して同じメンバーで活動することにより、仲間作りやリーダー育成も目的の一つである。高等教育機関との連携事業として、志学館大学の学生が指導するキャンプ活動や、鹿児島高専の工業技術講座も行っている。		<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 ↳ ( H 1 年度 ~ ) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ↳ (      年度 ~      年度 )

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標		活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
手段(主な活動)		名称	
19年度実績(19年度に行った主な活動)		単位	
開講式、落花生栽培・収穫、志学館大学生とのキャンプ活動(雨天のため交流活動に変更)、鹿児島高専での工業技術講座、防災キャンプ(無人島体験)、鬼火焚き、初午祭、閉講式		ア	実施回数
20年度計画(20年度に計画している主な活動)		イ	
開講式、さつま芋栽培・収穫、志学館大学生とのキャンプ活動、鹿児島高専講座、防災キャンプ、鬼火焚き、初午祭、地球温暖化を考える講座、閉講式		ウ	
対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等		対象指標(対象の大きさを表す指標)	
霧島市内小学4年生～高校生		名称	
		単位	
		ア	小学4年生～高校生
		イ	
		ウ	
意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
参加者が、心豊かな青少年の健全育成とリーダーに成長する。		名称	
		単位	
		ア	参加者数
		イ	
		ウ	
結果(どんな結果に結び付けるのか)		上位成果指標(結果の達成度を表す指標)	
霧島の豊かな自然の中で様々な体験活動ができる		名称	
		単位	
		ア	体験活動プログラムに参加した児童生徒の満足度
		イ	
		ウ	%

(2) 総事業費・指標等の推移		単位	18年度(実績)	19年度(実績)	20年度(見込)	21年度(見込)	22年度(見込)	23年度(見込)
投入量	事業費	財源内訳	千円					
		国庫支出金	千円					
		都道府県支出金	千円					
		地方債	千円					
		その他	千円					
		一般財源	千円	732	634	1,067		
	事業費計(A)	千円	732	634	1,067			
活動指標	ア	回	10	9	10	10	10	10
	イ							
	ウ							
対象指標	ア	人	13,073	12,887	12,769	12,769	12,769	12,769
	イ							
	ウ							
成果指標	ア	人	98	88	133	100	100	100
	イ							
	ウ							
上位成果指標	ア	%	未把握	未把握	90	90	95	95
	イ							
	ウ							

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等	
この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？	
現代の青少年にとって、異年齢での自然体験活動が不足している。次代を担う青少年が健全に成長し、ふるさとのよさを再確認する目的で平成元年から開始された。	
事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	
5年前と比較して、児童・生徒が市内全域から参加するようになった。	
この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？	
参加者の保護者から活動の継続するよう要望があった。	

事務事業名	わんぱく！きりしまっ子冒険塾事業	所属部	教育部	所属課	生涯学習課
-------	------------------	-----	-----	-----	-------

2 評価の部(SEE) *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価					
目的 妥当性 評価	政策体系との整合性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている【理由】 ↷	この事務事業の目的は市(町)の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？ 市内全域から集まった参加者が、異年齢での活動を通して、次代を担う健全な青少年を育成を図る。	
	公共関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である【理由】 ↷	なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？ 他校の児童・生徒との交流と体験は、次代を担う青少年の育成は、市の役割である。	
	対象・意図の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷	<input type="checkbox"/> 適切である【理由】 ↷	対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？ 現在小学4～高校生を対象としているが、参加申込者が非常に多く、施設の定員や安全性から、再考する必要がある。	
有効性 評価	成果の向上余地	<input type="checkbox"/> 向上余地がある【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない【理由】 ↷	成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？ 参加者の意識の向上が確認できている。	
	廃止・休止の成果への影響	<input type="checkbox"/> 影響無【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有【その内容】 ↷	事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？ 対象者の他校及び異年齢での活動の場がなくなる。	
	類似事業との統廃合・連携の可能性	<input type="checkbox"/> 他に手段がある(具体的な手段, 事務事業) ↷ <input type="checkbox"/> 統廃合できる ↷ <input type="checkbox"/> 連携できる ↷ <input type="checkbox"/> 統廃合できない ↷ <input type="checkbox"/> 連携できない ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない【理由】 ↷	目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？ 他に類似の事業がない。	
効率性 評価	事業費の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない【理由】 ↷	成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など) 現在でも、地域住民や他の行政機関の協力を頂いており、これ以上の削減余地はない。	
	人件費(延べ業務時間)の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない【理由】 ↷	やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど) 休日を活用する事業であり、削減できない。	
公平性 評価	受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である【理由】 ↷	事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？ 対象者全員に、案内チラシを配布し、参加希望者は全員受け入れている。	

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN) [担当課長記入欄]

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)
目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	徐々に応募者も多くなり周知されてきた事業である。プログラムの内容により学年制限を再考して行く必要がある。

(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可	(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)																
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持 <input checked="" type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) (従来通りで特に改革改善をしない) <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善)	コスト <table border="1"> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		削減	維持	増加	向上				維持				低下			
	削減	維持	増加														
向上																	
維持																	
低下																	
<改革改善案> 参加対象の学年を、プログラム内容により幅を持たせる。																	

(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策
参加者の安全性の確保

No.	事務事業名	青少年育成センター運営事業				所属部	教育部	
						所属課	生涯学習課	
政策体系	政策名	0	4	育み磨きあうまちづくり			課長名	野村 望
	施策名	0	2	青少年の健全育成			所属G(係)	生涯学習グループ
	基本事業名	0	2	青少年の非行防止のための環境づくり			電話番号	42-1111

予算科目	会計	款	項	目	事業	事業名	法令根拠	特になし
	一般	1	0	0	6	0	1	

事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						事業期間	
青少年育成センターは、日常の街頭指導活動や青少年の相談電話等の青少年に直接接する活動と、青少年を取り巻く有害環境の浄化活動等の間接的な活動があり、青少年健全育成の気運を高めていくことを目的としている。 補導員 国分地区5名, 単人地区3名, 8名 補導委員 学校籍62名, 地区有識者20名, 計82名						<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 ↳ ( H 17 年度 ~ ) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ↳ ( 年度 ~ 年度 )	

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と目標		活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
手段(主な活動)		名称	
19年度実績(19年度に行った主な活動)		単位	
定期街頭補導活動~補導員, 補導委員, 育成センター指導員が月に2~3回, 6つのコースを巡回指導した。		ア	定期補導回数
巡回指導~育成センター指導員が区内を巡回		イ	巡回指導回数
相談活動~育成センター相談員による相談活動		ウ	相談回数
20年度計画(20年度に計画している主な活動)		対象指標(対象の大きさを表す指標)	
定期街頭補導活動, 巡回指導, 相談活動		名称	
対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等		単位	
青少年		ア	青少年数
青少年の健全育成に悪影響を及ぼす可能性のある店舗		イ	悪影響店舗数
意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
街頭補導による青少年の初発型非行の防止や環境浄化		名称	
結果(どんな結果に結び付けるのか)		単位	
社会のルールを身につけ、守る		ア	指導を受けた未成年者数
非行をさせない環境をつくる		イ	
		ウ	
		上位成果指標(結果の達成度を表す指標)	
		名称	
		単位	
		ア	青少年が社会のルールを守っていると考える市民の割合
		イ	青少年の健全育成にとって市内が望ましい環境となっていると考える市民の割合
		ウ	

(2) 総事業費・指標等の推移		単位	18年度(実績)	19年度(実績)	20年度(見込)	21年度(見込)	22年度(見込)	23年度(見込)
投入量	事業内訳	国庫支出金	千円					
		都道府県支出金	千円					
		地方債	千円					
		その他	千円					
		一般財源	千円	7,089	8,418	7,670		
		事業費計(A)	千円	7,089	8,418	7,670		
活動指標	ア	回	75	63	70	70	70	70
	イ	回	56	80	70	70	70	70
	ウ	回	119	201	150	150	150	150
対象指標	ア	人	17,134	16,903	16,695	16,695	16,695	16,695
	イ	軒	133	133	133	130	130	130
	ウ							
成果指標	ア	人	213	150	130	120	120	110
	イ							
	ウ							
上位成果指標	ア	%	28.1	12.3	32.0	34.0	36.0	38.0
	イ	%	16.6	22.0	22.0	24.0	24.0	26.0
	ウ							

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等	
この事務事業を開始したきっかけは何か?いつ頃どんな経緯で開始されたのか?	
特になし	
事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?	
特になし	
この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	
特になし	

事務事業名	青少年育成センター運営事業	所属部	教育部	所属課	生涯学習課
-------	---------------	-----	-----	-----	-------

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価					
目的 妥当性 評価	政策体系との整合性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている【理由】 ↷	この事務事業の目的は市(町)の政策体系に結びつくか? 意図することが結果に結びついているか?	
	公共関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である【理由】 ↷	なぜこの事業を市が行わなければならないのか? 税金を投入して、達成する目的か?	
	対象・意図の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である【理由】 ↷	対象を限定・追加すべきか? 意図を限定・拡充すべきか?	
有効性 評価	成果の向上余地	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある【理由】 ↷	<input type="checkbox"/> 向上余地がない【理由】 ↷	成果を向上させる余地はあるか? 成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか? 何が原因で成果向上が期待できないのか?	
	廃止・休止の成果への影響	<input type="checkbox"/> 影響無【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有【その内容】 ↷	事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?	
	類似事業との統廃合・連携の可能性	<input type="checkbox"/> 他に手段がある(具体的な手段, 事務事業) ↷ <input type="checkbox"/> 統廃合できる ↷ <input type="checkbox"/> 連携できる ↷ <input type="checkbox"/> 統廃合できない ↷ <input type="checkbox"/> 連携できない ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない【理由】 ↷	目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか? 類似事業との統廃合ができるか? 類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか?	
効率性 評価	事業費の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない【理由】 ↷	成果を下げずに事業費を削減できないか? (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	
	人件費(延べ業務時間)の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない【理由】 ↷	やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか? 成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか? (アウトソーシングなど)	
公平性 評価	受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である【理由】 ↷	事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか? 受益者負担が公平・公正になっているか?	

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN) [担当課長記入欄]

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)																					
目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	積極的な広報・周知を図り、年々相談事業など増加の傾向にある。また、青少年の健全育成におおいに寄与していると考えられる。																					
(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可	(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)																					
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) (従来通りで特に改革改善をしない) <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善)	<改革改善案> 関係の民間企業等にセンターの活動を周知させる。																					
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持																					
	低下																					

No.	事務事業名			校外生活指導連絡会支援事業		所属部	教育部
						所属課	生涯学習課
政策体系	政策名	04	育み磨きあうまちづくり			課長名	野村 望
	施策名	02	青少年の健全育成			所属G(係)	生涯学習グループ
	基本事業名	02	青少年の非行防止のための環境づくり			電話番号	42-1111
予算科目	会計	款	項	目	事業	事業名	法令根拠
	一般	10	06	01	152015	青少年育成センター設置事業	特になし

事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						事業期間	
霧島市校外生活指導連絡会の運営補助として補助金を交付している。 市の活動～霧島市校外生活指導連絡会に補助金を支出するための手続きを行う。 連絡会の活動～児童生徒の健全な育成を図るため、霧島市PTA連絡協議会、霧島市子ども会育成連絡協議会、および、霧島市生活指導研究協議会が協力提携し、校外における生活指導を充実する。						<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 ↳ ( H 17 年度 ~ ) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ↳ (        年度 ~        年度 )	

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標		活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
手段(主な活動)		名称	
19年度実績(19年度に行った主な活動) 校外生活指導連絡会総会の開催, 地区別校外生活指導連絡会の開催(3回)		単位	
20年度計画(20年度に計画している主な活動) 19年度に同じ		ア 連絡会の開催	
対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等 校外生活指導連絡会構成員		回	
意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 校外生活指導連絡会の円滑な運営と財政の健全化を図る。		イ	
結果(どんな結果に結び付けるのか) 社会のルールを身につけ、守る 非行をさせない環境をつくる		ウ	
		対象指標(対象の大きさを表す指標)	
		名称	
		単位	
		ア 校外生活指導連絡会の構成員数	
		人	
		イ	
		ウ	
		成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
		名称	
		単位	
		ア 自主財源率	
		%	
		イ	
		ウ	
		上位成果指標(結果の達成度を表す指標)	
		名称	
		単位	
		ア 青少年が社会のルールを守っていると考える市民の割合	
		%	
		イ 青少年の健全育成にとって市内が望ましい環境となっていると考える市民の割合	
		%	
		ウ	

(2) 総事業費・指標等の推移		単位	18年度(実績)	19年度(実績)	20年度(見込)	21年度(見込)	22年度(見込)	23年度(見込)
投入量	事業内訳	財源内訳	千円					
		国庫支出金	千円					
		都道府県支出金	千円					
		地方債	千円					
		その他	千円					
		一般財源	千円	409,000	369,000	350,000		
事業費計(A)		千円	409,000	369,000	350,000			
活動指標		ア 回	5	5	5	5	5	5
対象指標		ア 人	18	18	18	18	18	18
成果指標		ア %	49	52	53	55	55	55
上位成果指標		ア %	28.1	12.3	32.0	34.0	36.0	38.0
		イ %	16.6	22.0	22.0	24.0	24.0	26.0
		ウ						

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等	
この事務事業を開始したきっかけは何か?いつ頃どんな経緯で開始されたのか? 平成17年の市町村合併により霧島市として「郊外生活指導連絡会」の組織を整備した。17年度は旧自治体の組織で暫定的に活動し、平成18年度より、各種団体が霧島市に一本化されたのを受け、「霧島市校外生活指導連絡会」として発足した。	
事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか? 市町合併に伴い、新市の校外における青少年健全育成のための組織として、広範囲な情報・意見交換等に役立っている。	
この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか? 参加者から、児童生徒の商店等への出入りの不可等について明確化してほしいという声があがっている。	

事務事業名	校外生活指導連絡会支援事業	所属部	教育部	所属課	生涯学習課
-------	---------------	-----	-----	-----	-------

2 評価の部(SEE) *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価					
目的 妥当性 評価	政策体系との整合性 この事務事業の目的は市(町)の政策体系に結びつくか?意図することが結果に結びついているか?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている【理由】 ↷	校外における青少年健全育成のための組織として、情報・意見交換に役立っている。	
	公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか?税金を投入して、達成する目的か?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である【理由】 ↷	連絡会の円滑な運営と財政の健全化を図る上で妥当である。	
	対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか?意図を限定・拡充すべきか?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である【理由】 ↷	各方面からの協力も得られており、現状で十分である。	
有効性 評価	成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか?成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか?何が原因で成果向上が期待できないのか?	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある【理由】 ↷	<input type="checkbox"/> 向上余地がない【理由】 ↷	構成員一人一人の意識の向上を図る。組織としての機能化を図る。	
	廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?	<input type="checkbox"/> 影響無【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有【その内容】 ↷	学校、保護者、関係機関が連携して青少年の健全育成に寄与する場がなくなる。	
	類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか?類似事業との統廃合ができるか?類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか?	<input type="checkbox"/> 他に手段がある(具体的な手段,事務事業) ↷ <input type="checkbox"/> 統廃合できる ↷ <input type="checkbox"/> 連携できる ↷ <input type="checkbox"/> 統廃合できない ↷ <input type="checkbox"/> 連携できない ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない【理由】 ↷	現在の状況で各方面より協力を得られている。	
効率性 評価	事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか?(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない【理由】 ↷	仕事を犠牲にして参加されている面もあるので削減予知はないと考える。	
	人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか?成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか?(アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない【理由】 ↷	すでに外部で対応している。	
公平性 評価	受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか?受益者負担が公平・公正になっているか?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である【理由】 ↷	市全体に広がっており、公平・公正である	

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN) [担当課長記入欄]

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)
目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	組織の改善,事業の改善を図ることで今後も向上の余地がある。

(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可	(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)																						
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) (従来通りで特に改革改善をしない) <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <改革改善案> 構成員の青少年健全育成に対する意識の向上を図る。	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持					低下			
				コスト																			
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持																						
	低下																						

(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策  
 全員が参加しての研修会等の開催